

～だれでも、いつでも、どこからでも。ひとりひとりが繋がれる“劇場”。～

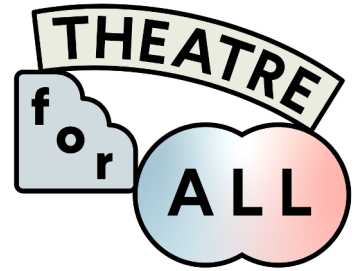
シアターフォーオール

## 日本初、バリアフリーと多言語で鑑賞できるオンライン型劇場『THEATRE for ALL』

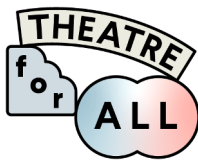
### 第二弾配信作品・ラーニングプログラム発表！

国内外でのイベント企画・運営を行う制作会社株式会社precogは、文化庁とともに主催するオンライン型劇場“THEATRE for ALL”（シアターフォーオール）の第二弾配信作品・ラーニングプログラムを発表いたします。

“THEATRE for ALL”は、日本で初めて演劇・ダンス・映画・メディア芸術を対象に、日本語字幕、音声ガイド、手話通訳、多言語対応などを施した動画配信プラットフォームで、2月5日のサービス開始以降、オリジナル作品を含む映像作品約30作品、ラーニングプログラム約30本を配信予定。新型コロナウイルスで外出困難となった方、障害や疾患がある方、子ども、母語が日本語以外の方、また、芸術に対して「わからなさ」がバリアとなり馴染んでこられなかった方などに対して、開かれた劇場を目指します。 <https://www.theatreforall.net/>



独自メソッドによるTHEATRE for ALLラーニングでは、作品を感じる視点を育てる解説動画『2つのQ』とアーティストの表現や対話型鑑賞などの手法を生かした参加型ワークショップの大きく2種類のオリジナルプログラムを、多言語字幕や手話などのアクセシビリティ対応付きで提供します。これにより、思考力や対話力が生まれ、新しい創造的チャレンジが生まれるような学びの場を目指します。



#### 【問いをもち冒険しよう！解説動画『2つのQ（キュー）』】

キュー

作品を感じたり、解釈したりするためのひとつのウォーミングアップとなる解説動画『2つのQ』では、鑑賞者が作品を感じ考える“Qエスション（問い）”を持ったり、考えたことを行動に移し“Qエスト（冒険）”したくなる動画を多数ご用意しています。作品をつくったアーティスト本人や、作品を見るために大切な視点を提供してくれるゲスト解説者などが登場。自分だけでは気づかなかったような新しい視点を得ながら作品を理解することができます。[料金：無料、尺：10分程度]

#### ラーニング

#### 【体を使って、考え、学び、繋がれる。参加型ワークショップ】

参加型ワークショップでは、実際に身体を動かしながら、作品自体や作品から広がる世界について学んだり、自分たちが感じる世界をより深く探求するようなワークショップを対話型で行います。参加者とアーティストが近い距離感で出会うことができたり、これまで出会ったことのない誰かと繋がったり、視点を交換したりできるのは、THEATRE for ALLラーニングならではの特徴です。

#### 【配信作品第二弾、11作品発表！】 ※次頁に作品概要あり

##### 【ドキュメンタリー】

True Colors FASHION ドキュメンタリー映像「対話する衣服」-6組の“当事者”との葛藤-

（デザイナー×モデル（6組）：斎藤幸樹×カイト、SiThuAung×アオイヤマダ、市川秀樹×大前光市、タキカワサリ×ちびもえこ、田畑大地×葦原海、八木華×須川まきこ アドバイザー：山縣良和（こののがっこう） 監督：河合宏樹）  
KYOTO EXPERIMENT 2021 SPRING 開催に向けてのドキュメンタリー（仮）

##### 【映画】太田信吾「サンライズ・ヴァイブレーション」

東陽一「絵の中のぼくの村」

中村真夕「ナオト、いまもひとりっきり」

##### 【メディア芸術】毛利悠子「I/O」

和田永「エレクトロニコス・ファンタスティコス！～本祭I：家電雷鳴篇～」

##### 【演劇】たんぽぽの家アートセンターHANA「僕がうまれた日」

##### 【舞台】「朗読劇 #ある朝殺人犯になっていた」

金原亭世之介&RAGG 落語ミュージカル「お菊の皿」

劇団わらび座 ミュージカル「ジパング青春記 一慶長遣欧使節団出帆一」

【ドキュメンタリー】True Colors FASHION ドキュメンタリー映像「対話する衣服」-6組の"当事者"との葛藤-

デザイナー×モデル（6組）：斎藤幸樹×カイト、SiThuAung×アオイヤマダ、市川秀樹×大前光市、タキカワサリ×ちびもえこ、田畑大地×葦原海、八木華×須川まきこ アドバイザー：山縣良和（このがっこう） 監督：河合宏樹

「ファッションデザインの役割とは、様々な個性と生き方を拡張し、新たな人間像を表現することにある。僕は今回今まで味わったことのない人間像を目の当たりにした。」 — 山縣良和（このがっこう）

気鋭の若手ファッションデザイナーを世界に輩出し続ける私塾「このがっこう」。本作では、卒業生と在校生から選抜された6人のデザイナーが、6人の異なるモデルに向き合って作品制作に挑んだ。監督は「うたのはじまり」で知られる河合宏樹。作品完成までの数ヶ月、悪戦苦闘しながらもそれぞれの個性に向き合った姿を記録した。

★字幕あり、英語字幕、日本語音声ガイド

【ラーニング】

「身体補助・身体拡張のテクノロジーがもたらす未来の身体とファッション」をテーマに、車椅子、義手、義足、補聴器など、身体障害に対する補助として生まれた機器を中心に、最新の取り組みを紹介していくオンラインシンポジウムおよび参加型ワークショップを開催。  
登壇：島影圭佑、山縣義和（このがっこう）ほか

河合宏樹：学生時代より自主映画を制作。震災後はミュージシャン、パフォーマーなど表現者に焦点を当て撮影を続け、記録映像に留まらない「映像作品」をアーカイブ。時にはドキュメンタリーとして作品化。ライブ&イベント撮影をメインに映像制作全般で活動する。2016年、七尾旅人が戦死自衛官に扮した初のライブ映像作品『兵士A』を監督、BD/DVDでリリース。全国各地で劇場上映。2017年には鉛屋法水と山下澄人の初タッグになる作品『コルバントトリ、』の公演を映像化。2020年、ろうの写真家・齋藤陽道のドキュメンタリー『うたのはじまり』を全国公開。『うたのはじまり』公式HP▷<https://utanohajimari.com/>

このがっこう：ファッションの本質を学ぶ学校として、2008年に山縣良和によって設立。2014年、日本で初めてセントラル・セント・マーチンズ美術大学ファッション学部とのコラボレーション授業を開催。2019年には、山縣がBuisiness of fashionが主催するBOF 500に選出。現在活躍する多くのデザイナー、アーティストを輩出している。

<https://www.coconogacco.com/>

【映画】中村真夕「ナオト、いまもひとりっきり」

2015年に公開された話題作「ナオトひとりっきり」から5年。福島の中核避難になった町に一人で動物たちと残り続けた男・ナオトのその後は？犬、猫、ポニー、ダチョウ、牛たちはどうなった？帰還できる町になった富岡町の今は？原発事故に翻弄され続けた男の生きざまに迫る！日本だけでなく、海外でもロングラン上映された話題作の待望の続編。

★聴覚障害向け日本語字幕、英語字幕、日本語音声ガイド、英語音声ガイド

【ラーニング】

長崎大学、University of North Carolina（アメリカ）と作品製作陣が連携し、オンラインでの作品鑑賞会とシンポジウムを開催。  
出演：中村真夕（監督）、松村直登（本作主演）ほか

中村真夕：ニューヨーク大学映画科卒。劇映画「ハリヨの夏」（2006釜山国際映画祭コンペティション部門）でデビュー。ドキュメンタリー映画「孤独なツバメたち～デカセギの子どもに生まれて」（2012）。ドキュメンタリー映画「ナオトひとりっきり」（2015モントリオール世界映画祭ドキュメンタリー映画部門）。ドキュメンタリー映画「愛国者に気をつけろ！鈴木邦男」（2019）。劇映画「密のわな（仮題）」が公開待機中。

【メディア芸術】

和田永「エレクトロニコス・ファンタスティコス！～本祭I：家電雷鳴篇～」

2017年11月、本来の役目を終えたブラウン管テレビ、扇風機、エアコン、掃除機、ドライヤーなどが「家電楽器」となり、東京タワーの麓に集結。五角形の巨大やぐらを囲み、家電が奏でる祭ばやしにのせて踊る《電磁盆踊り大会》が執り行われた。アーティスト和田永が中心となり、役割を終えた電化製品を新たな楽器へと蘇生させ、オーケストラを形づくるプロジェクト「エレクトロニコス・ファンタスティコス！」が生んだ前代未聞の奇祭が映像化！

★多言語字幕（日・英・中・スペイン・ポルトガル）、日本語音声ガイド

【ラーニング】

アーティストの和田永がファシリテーターを務め、家電楽器の音の仕組みを学び、家電がどんな楽器になり得るかを想像するワークショップを海外向けに実施。

和田永：アーティスト/ミュージシャン。物心ついた頃に、ブラウン管テレビが埋め込まれた巨大な蟹の足の塔がそびえ立っている場所で音楽の祭典が待っていると確信し、今に至る。オープンリールテープレコーダーを楽器として演奏する「Open Reel Ensemble」主宰。2015年より、役割を終えた電化製品を新たな電子楽器へと転生させるプロジェクト「ELECTRONICOS FANTASTICOS!」に取り組む。



撮影：LILY SHU



<http://aloneinfukushima.com/again/>



Photo by Mao Yamamoto  
<https://www.electronicosfantasticos.com/>

## 【ドキュメンタリー】

### KYOTO EXPERIMENT 2021 SPRING 開催に向けてのドキュメンタリー（仮）

今年で11年目を迎える「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭」の開催までを追うドキュメンタリー。新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術のあらゆる形態が影響を受け、フェスティバルというシステムや鑑賞すること自体をも問い直す必要性に迫られたこの特殊な状況下で、いかにしてフェスティバルを構築し、舞台芸術の未来に向けた可能性を提示するのかに迫る。



©小池アイ子

<https://kyoto-ex.jp/>

★聴覚障害向け日本語字幕、英語字幕

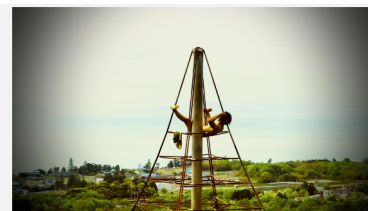
## 【ラーニング】

「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭」（以下KEX）の立ち上げに関わった前ディレクター・橋本裕介氏、京都を拠点に活動しKEXに複数回参加しているアーティストの木ノ下歌舞伎・木ノ下裕一氏が出演し、本編で取り上げる「京都国際舞台芸術祭」とはどういったものなのか、KEXの成り立ちとこの10年の変遷を主軸に解説した映像を製作する。

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭：国内外の「EXPERIMENT(エクスペリメント)=実験」的な舞台芸術を創造・発信し、芸術表現と社会を、新しい形の対話でつなぐことを目指すフェスティバル。演劇、ダンス、音楽、美術、デザイン、建築などジャンルを横断した実験的表現が集まり、そこから生まれる創造、体験、思考を通じて、新たな可能性をひらいていく。

## 【映画】太田信吾「サンライズ・ヴァイブレーション」

新型コロナウイルスによる外出自粛により運動不足や精神的失調を訴える人が増加するなか、「肛門日光浴」を実践するミュージシャンの男性がその一風変わったアクションでうつ病や引きこもりの人々を勇気付けてゆく物語。



©Hydroblast

<https://www.hydroblast.asia/>

★英語字幕、聴覚障害者向け日本語字幕・音声ガイド、手話通訳

太田信吾：1985年生まれ。長野県出身。早稲田大学で哲学を専攻。引きこもりをテーマに製作した映画『卒業』がIFF2010優秀賞・観客賞を受賞。友人の自殺に向き合った映画『わたしたちに許された特別な時間の終わり』がYIDFF2013 他12ヶ国で公開。劇映画「解放区」は2019年テアトル新宿を皮切りに全国ロードショー。俳優としてチェルフィッチュを始めとする舞台や映像作品にも出演している。

## 【映画】東陽一「絵の中のぼくの村」

誰にもある心の風景を舞台に描く不滅のファンタジー映画。原作は、絵本作家である田島征三の自伝的エッセイ「絵の中のぼくの村」（くもん出版刊）。ふたごの兄・征彦もまた絵本作家。二人が生涯で一番大切にしたい思い出と語る、高知での少年時代のエピソードに、原作にはなかった三人の老婆や伝説の妖怪を登場させ、物語をいっそうファンタジックなものにしている。



★聴覚障害向け日本語字幕、音声ガイド

<http://www.cine.co.jp/works1/village/index.html>

東陽一：1934年生まれ、和歌山県出身。早稲田大学文学部卒業後、岩波映画製作所に入社。1962年に退社しフリーの映画監督として活動を始める。96年の「絵の中のぼくの村」は第46回ベルリン国際映画祭で銀熊賞に輝くなど、国内外で高い評価を受けた。

## 【メディア芸術】毛利悠子「I/O」

流れるロール紙が取り込んだ空間の情報が、電気信号に変換され、配置されたオブジェを動かす。展示環境をスキャンする本作は、人工と自然が織り成す独自の生態系にも喩えられる。THEATRE for ALLでは、この毛利の代表作を映像化。詩人・大崎清夏と映像作家・玄宇民とのコラボレーションにより、アート作品を知覚するとはどういうことか？という問いへ挑む。



撮影：新津保建秀

<http://mohrizm.net/ja/>

★音声ガイド、聴覚障害向け日本語字幕、英語字幕

毛利悠子：1980年神奈川県生まれ。磁力や重力、光など、目に見えず触れられない力をセンシングするインスタレーションを制作。主な個展に、「Voluta」カムデン・アーツ・センター（ロンドン、2018年）、「ただし抵抗はあるものとする」十和田市現代美術館（2018年）、ほか、数々の国際展およびグループ展に参加。2015年に日産アートアワードグランプリ、2017年に第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞を受賞。

### 【演劇】たんぽぽの家アートセンター-HANA「僕がうまれた日」

「たんぽぽの家アートセンター-HANA」が毎週行っている演劇プログラム「HANAPLAY」の中で創作された作品。参加している障害のあるメンバーがそれぞれに経験した出来事と、かつて共に演劇を創作し、数年前に突然この世を去った仲間の人生を重ね合わせてできた物語。

★聴覚障害者向け日本語字幕、英語字幕



photo: 仲川あい

<https://tanpoponove.org/>

たんぽぽの家 アートセンター-HANA: 日本初の障害がある人たちのアートセンターとして2004年、奈良県にオープン。すべての人がアートを通じて自由に自分を表現し、互いの感性を交感することができるコミュニティ・アートセンターです。障害のある人たちが個性をいかしながらビジュアルアーツやパフォーマンスアーツに取り組んでいます。演劇プログラム「HANAPLAY」は毎週1回創作活動を行っています。

### 【舞台】「朗読劇 #ある朝殺人犯になっていた」

藤井清美氏がネット化した現代の間をユーモラスにミステリー仕立てに描いた新作小説「#ある朝殺人犯になっていた」。U-NEXTで電子書籍として配信されたのち、11月にU-NEXT初の紙の書籍として出版されたばかりの話題作。この小説を戯曲化し、ステージングと生演奏、映像を使用した新感覚朗読劇を目指す。

★手話通訳、音声ガイド



<https://horipro-stage.jp/stage/aruhan2021>

#### 「朗読劇 #ある朝殺人犯になっていた」公演

日程: 2021年1月29日(金)~2月7日(日)  
会場: こくみん共済 coop ホール/スペース・ゼロ

チケット販売: 1/22(月) 一般発売予定  
料金: 6,000円 (全席指定・税込)

キャスト: 須賀健太/山崎大輝(Wキャスト) 赤澤遼太郎(Wキャスト) 美山加恋(Wキャスト) 宮澤佐江(Wキャスト) 真凜/馬淵英里何 山崎裕太/松本利夫(EXILE)

### 【舞台】金原亭世之介&RAGG 落語ミュージカル「お菊の皿」

芸歴四十余年の金原亭世之介の噺の力とRAGGの楽曲の美しさが魅せる驚きのパフォーマンスで多くの人々を虜にしてきた、落語とサンバ系ロック音楽のジョイントステージの「落語ミュージカル」。本作は、古典落語「お菊の皿」を金原亭世之介風にアレンジし、幽霊と江戸っ子の恋愛物語にまで発展させた笑って泣けるトライアル公演。



©2018 King Production Co.Ltd.

[http://kingpro.co.jp/topic\\_ragg.html](http://kingpro.co.jp/topic_ragg.html)

★聴覚障害者向け日本語字幕、英語字幕

金原亭世之介 & RAGG: 金原亭世之介が二十代後半の頃、その音楽的才能を認めていたギタリスト中村隆志に声をかけ「落語ミュージカル」を始める。その後、メンバーを集めRAGGを結成。RAGGの由来は「ラグタイム」と「ギャグ」の二つを意味を混ぜて作られた造語。ボーカル・金原亭世之介、ギター・中村隆志に加え、YAZAWAや杏里のバックを務めたドラム・矢口浩、パーカッション・栗山豊二、ベース・亀川洋、キーボード・田辺裕己彦の計6名からなる。

### 【舞台】劇団わらび座 ミュージカル「ジパング青春記 —慶長遣欧使節団出帆—」

石巻の浜辺。年老いた雌猫が子猫たちに語り出す。400年前、この地を襲った大地震と大津波。その傷を乗り越えた一隻の船と、一人の青年の物語。慶長の大津波から2年後、伊達藩から出帆した遣欧使節団の情熱と、東日本大震災からの復興の思いを重ね合わせ、人々が悲しみの中から希望を取り戻して生きていく姿を描く。宮城の郷土芸能・鹿踊りや和太鼓、日本の伝統芸能と、多彩な楽曲が融合するオリジナルミュージカル。



★聴覚障害者向け日本語字幕、英語字幕

宣伝美術: 澁谷和之 (澁谷デザイン事務所)

<https://www.warabi.jp/jipang2019>

劇団わらび座: 民族伝統をベースに、多彩な表現で現代の心を描く劇団。近年日本のオリジナルミュージカルを主に制作する。1951年2月創立。民謡の宝庫と呼ばれる秋田県仙北市にホームを置き、現在5つの公演グループで年間約800回の公演を全国で行う。アメリカ、ヨーロッパ、アジア、ブラジルなど16カ国での海外公演実績を持つ。

## THEATRE for ALL

株式会社precogがオープンする、日本で初めて演劇・ダンス・映画・メディア芸術を対象に、日本語字幕、音声ガイド、手話通訳、多言語対応などのバリアフリー対応を施したオンライン型劇場です。2月から3月にかけて映像作品約30作品、ラーニングプログラム約30本を配信予定。現在、オープンを目指し、様々なアクセシビリティに対してリサーチ活動を行う「THEATRE for ALL LAB」を立ち上げ、障害当事者やその他様々な立場の視聴者、支援団体などと研究を重ねています。また、作品の配信に加え、鑑賞者の鑑賞体験をより豊かにし、日常にインスピレーションを与えるラーニングプログラムの開発に力を入れています。

※今年度の事業は、文化庁 令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業『文化芸術収益力強化事業』バリアフリー型の動画配信プラットフォーム事業として、実施しています。

THEATRE for ALL LABマガジン: [https://note.com/theatre\\_for\\_all](https://note.com/theatre_for_all)

THEATRE for ALLティザーサイト: <https://www.theatreforall.net/>

## THEATRE for ALLラーニング

一見とつきにくそうな作品でも、観賞のための視点が得られると、たちまち自分の世界が無限に広がり、体験が豊かになります。解説動画やアーティストや学者などによるワークショップを通じ、個性の異なる参加者同士の触発と、創造的アクションにつながる学びの場を作ります。

## THEATRE for ALL立ち上げの経緯

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、パフォーマンスアーツは劇場での上演を従来の規模・方法で発表することが難しい状態が続いた一方、オンライン配信ならではの新たな映像作品や芸術鑑賞体験が生まれました。同時に、東京オリンピック・パラリンピックの開催計画を機に高まったバリアフリー・ダイバーシティ化の機運も、大会開催延期を受け、中断や延期されている状況にあります。この社会的な背景を受け、多様な人々が多彩な芸術にアクセスでき、より多くの人々が文化的な生活を送れる社会の実現を目指すため、これまでなかなかバリアフリー対応やeラーニングプログラムの取り組みの機会がなかったアーティスト・事業者の方々にお声がけしながら立ち上げにいたしました。

## 主催者

文化庁 令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業『文化芸術収益力強化事業』バリアフリー型の動画配信プラットフォーム事業



### 株式会社precog

国内外で実施される様々な『イベント』を成功に導くための企画や運営をおこなう制作会社です。観客やアーティストとともにワクワクするような化学反応を起こし、日々更新される“現在”の面白さを伝えていきます。precogならではのネットワークやリレーションシップを活かし、多角的な視点からのリサーチを重ねることで、作品や上演の質を上げ、プロジェクトの同時代性や事業の継続性を追求し続けています。日常にある“表現”に価値を見出し、国際的なシーンや地域コミュニティと繋がり、教育や福祉を視野に入れて、“表現”の未来をつくります。 <https://precog-jp.net>



## パートナー企業

合同会社ARTLOGY (事業コンサルティング)

シティライツ法律事務所 (契約・法務・権利処理) <https://citylights.law/>

一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL (ファンコミュニティ醸成のための企画・運営) <http://drifters-intl.org/about/>

Palabra株式会社 (バリアフリーコンテンツの監修) <https://palabra-i.co.jp/>

株式会社ミミクリデザイン (ラーニングプログラム監修) <https://mimicrydesign.co.jp/>

株式会社メジャメント (アクセシビリティ監修) <https://www.measurements.co.jp/>

株式会社MOTION GALLERY (クラウドファンディング企画・ファンコミュニティ醸成) <https://motion-gallery.net/about>